

私が毎日通る通学路に、神田川という大きな川があります。晴れた日には小さな子ども達が水浴びに来るようなきれいな川です。私もよく友達と遊んだりします。

このようなきれいな川が自分が住んでいる町にあり、本当によかったといつも思います。暑い夏の日には友達と川に入って遊ぶのが本当に楽しくて、大好きだからです。

神田川が湧き出ているのは湧玉池という所です。神田川と同様にきれいな池で、虹マスや鯉、カモなどが生そくしています。

私はずっと神田川がきれいなのは、全て自然の力によるものだと思っていました。しかしそうではないという事を、中学生になって初めて知りました。神田川清掃という大規模な川の掃除が年に一度あります。今年は私の通う中学校にも呼びかけがあり、私も参加しました。私は川周辺のゴミ拾いを手伝いました。きれいだと思っていた川の近くに意外にも多くのゴミが落ちていたことにショックを受けました。友達と協力してゴミを拾い、きれいな神田川が戻ってきました。それから大人の人は川の中に入ってゴミをとったり外来種をもを抜いたりしていました。神田川を愛しているこの町の人がいるから、神田川はきれいな川であり続けられるんだと感じました。

いつもはきれいで澄みわたっている神田川ですが、大雨の時はとても恐い川になります。茶色の濁流がごうごうと音を立てて流れ、いつもより水かさも増えます。それを見ると神様が怒っているように感じて、日頃の自分を考えさせられます。家事の手伝いを怠ったからだろうか、授業中友達と話していたからではないかなど、たくさん後悔をします。そして晴れた次の日に、元に戻った川を見て、これからは気をつけようと思うのです。

私はよく友達と遊びますが、その際よく目にするのが転んだり擦ったりと、ケガをして泣いている小さな子ども達です。川は楽しい所でもあるけれど、同時にとても危険な所でもあると思います。インターネットで調べたところ、水難事故で亡くなられた方の約三割が、河川での事故で命を落とされたことが分かりました。そしてその四分の三が二十代までの若い人で、さらに事故の六割が夏休み中の七・八月に起こっていることも分かりました。私は自分もかなり危ないのではないかと思いい、川で遊ぶときは安全に注意して遊ぼうと思いました。

地域で川の危険性についてポスターなどで呼びかけをしたり、神田川清掃のような作業に参加することはとても有意義で、川での事故の予防だけでなく、それによって地域の人々との交流、連携が可能になります。三月の東日本大震災においても、地域住民同士のつながりや協力が大変大きな助け、支えになることを学んだので、神田川周辺の自然環境や生態系を守る為の活動に、町をあげ

て取り組む姿勢や意識が大事だと思います。

また、浅間大社では年に数回大きな祭りが催されます。御神火祭りではメインイベントとして、男の人達が御輿を担ぎ川を昇る「神田川昇り」が行われ、夏の風物詩とも言える「灯籠流し」では、毎年子どもからお年寄りまで自ら作ったそれぞれの灯籠を思いを込めて神田川へ流します。これらに代表されるように、富士宮市の伝統行事においても、長い間神田川は重要な役割を果たして来ました。そしてこれは今後も損なわれることなく、住民の力で維持されなくてはなりません。

川というのは清らかでいやされる一面もありますが、時には危険な顔を見せます。私がそうであるように、皆が神田川を愛し共に生きていけるように、これからも自分たちに何ができるか考え提案し、町全体で取り組み、美しい神田川を守っていくことが未来を担う私たちの義務であると強く感じました。